



JA 粕屋 HP

## 準早期水稻（夢つくし）管理情報 NO.2

### 1. 生育概況

6月上中旬の気象は、平年と比較して平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は少なくなりました。

6月24日の生育調査では、目立った病害虫の発生はなく順調に生育しており、莖数も十分に確保されていました。ただし、一部でジャンボタニシの食害を受けているほ場が散見されました。

### 2. 水管理

下表を参考にして、水稻の生育にあわせて水管理を実施してください。

タイミング	水管理	ポイント
中干し後～出穂 1 週間前	間断かん水	湛水→自然落水→湛水の繰返しを行いましょう。
出穂前後 1 週間	湛水	生育期間で一番水が必要な時期のため、水を切らさないようにしましょう。
出穂 1 週間後以降	間断かん水	この時期の根の活性が登熟に大きく影響するため、水を溜めっぱなしにしないようにしましょう。

高温障害（高温不稔、白未熟粒の発生）対策として出穂 1 週間前からの水管理が特に重要です。  
この時期以降に落水状態が続くと稲が高温状態になりやすく、高温障害を助長するのでは場の状態を十分に確認してください。

### 3. 穂肥

下表を参考にして、基肥に使用した肥料に応じて穂肥を判断してください。

基肥に使用した肥料	穂 肥
<b>基肥一発肥料</b> (J コート 2000、有機特栽米エムコート 256 号、有機エムコート 355 号など)	穂肥の必要はありません。 ただし、葉色が極端に薄い場合は、高温障害が生じやすくなるため、その際は JA 粕屋各プラザにご相談ください。
<b>速効性肥料</b> (くみあい化成ベスト 444、有機特栽米基肥 017 号など)	NK 化成 2 号 15kg/10a または 有機入特栽米追肥 047 号 20kg/10a

穂肥は下表の生育タイミングを参考に施用してください。

品種	葉色	幼穂長 (mm)	出穂前 日数	田植え時期別の施用時期の目安		
				田植え時期	穂肥時期	(参考) 平年出穂期
夢つくし	3.5	2～5	18～20 日	5 月 18 日頃	7 月 4～6 日頃	7 月 24 日頃
				5 月 25 日頃	7 月 9～11 日頃	7 月 29 日頃
				6 月 1 日頃	7 月 12～14 日頃	8 月 1 日頃


※なたね油粕を使用する場合は、目安より施用を 7～10 日早め、施用量を 30kg/10a とします。

※ほ場の地力、水稻の葉色に応じて穂肥の施用時期・施用量は調整して下さい。

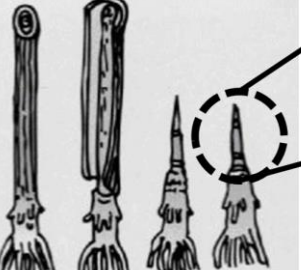
※葉色が濃いほ場(4.0 以上)は、施用量を減らすか施用を止めましょう。


《幼穂長の確認方法》

《その1 カッターなどで割る》



《その2 葉鞘をむく》





幼穂長(矢印部)  
2～5mm

調査時 幼穂長	穂肥時期 の目安
0.5mm	6～7日後
1.5mm	4～5日後
2.0mm	1～2日後
3.0mm	0～1日後

4. 病害虫防除

下記によりいずれかの体系で必ず防除してください。また、薬剤防除のほか、斑点米カメムシ対策として、出穂 14 日前の畦畔除草を徹底しましょう。

【基幹防除】

対象病害虫	防除適期	体系・農薬名		使用量(10a あたり)	使用時期
いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉	ダブルカットバ リタ トホソ粉剤 3DL	3～4kg	穂揃期まで
		液	(3 剤混用) ダブルカット707 アブル モンセイソ707 アブル イクソード 707 アブル	〔希釈水量 140ℓ〕 140mℓ (1,000 倍) 93mℓ (1,500 倍) 70mℓ (2,000 倍)	穂揃期まで 収穫 21 日前まで 収穫 7 日前まで
		粒	(どちらかを散布) ゴウケツエンスター粒剤 ワイドパソ豆つぶ	3kg 250g	<u>出穂 5 日前まで</u> (但し、収穫 45 日前まで) 収穫 35 日前まで

※ゴウケツエンスター粒剤の使用時期には、十分注意して使用するようにしましょう。

※粒剤は粉剤、液剤よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

(ウンカ類、カメムシ類を対象とする場合 (イネカメムシ対策はページ下部参照))

対象病害虫	防除適期	体系・農薬名		処理量(10a あたり)	使用時期	使用回数
ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉	イクソード 粉剤 DL	3kg	収穫 7 日前まで	3 回以内
		液	イクソード 707 アブル	〔希釈水量 140ℓ〕 70mℓ (2,000 倍)		
		粒	スタークル粒剤	3kg		3 回以内

※粒剤は粉剤、液剤よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

※殺虫剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けてください。

用語の説明

「出穂期」：全莖数の 40～50%が出穂（止め葉の付け根から穂先が出現）した日

「穂揃期」：全莖数の 80～90%が出穂（止め葉の付け根から穂先が出現）した日

【補正防除】

基幹防除のみでは病害虫の発生が抑制できない場合は、栽培こよみ掲載の補正防除を検討しましょう。

近年、特に増加しているイネカメムシは水稻品種にかかわらず収量・品質に大きく影響を及ぼしているため、ほ場を十分確認し、発生が認められた場合は防除を実施しましょう。

《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は 12～13mm、幅 5～6mm で体色は茶褐色
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稻に飛来し、水稻の穂を吸汁 ・出穂の早い品種から順に遅い品種へ移動し、被害を及ぼす
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔粒が発生し収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下
対策	・「 <u>出穂期</u> 」と「 <u>出穂期の 14 日後</u> 」の 2 回防除が基本 ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の 1 週間前に施用 ・防除薬剤は「イクソード剤」か「スタークル剤」を使用

要注意！



イネカメムシ

※殺虫剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けてください。

農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ④防除履歴を記帳しましょう
- ⑤散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう